

パート 2:キリスト教の重要素・非重要素

4:1 さて、主の囚人である私はあなたがたに勧めます。召されたあなたがたは、その召しにふさわしく歩みなさい。4:2 謙遜と柔和の限りを尽くし、寛容を示し、愛をもって互いに忍び合い、4:3 平和のきずなで結ばれて御霊の一致を熱心に保ちなさい。

皆さんおはようございます。3ヶ月前に、大阪インターナショナルチャーチの創立記念日に「根本では一致を、それ以外には自由を、すべてにおいて慈愛を」というテーマで説教をしました。これは多くのクリスチャンが用いる標語で、私も大好きです。この標語の意味は、クリスチャンを名乗る人の中でも一致するべき本質的な基本教理が存在するという事です。この標語の2つ目の部分が示すことは、本質的な基本教理の他にも、聖書を信じる誠実なクリスチャンの中で意見が分かれる教えや慣習があり、互いに異なる見解を持つ自由をゆるす寛容さが必要だということです。そしてこの標語の3つ目の部分には、私達が何をするときも、何を言うにしても、慈愛、愛を示さなければならないとあります。「根本では一致を、それ以外には自由を、すべてにおいて慈愛(愛)を」

この標語は、「私達は基本教理では一致するべきでも、他の事柄で意見が異なることがあっても互いを受け入れるべき」という私の核となる信念の一つを表しています。OICには様々な教派の人が集いますから、超教派教会のメッセージとしてふさわしいと思い、昨年10月の創立記念日でこのテーマについて私の思いを分かちあうことにしました。けれども、そのときは話したいことをすべて話さず、それについて後から教会で兄弟と話していると、彼らも私が話したかった内容をもう少し知りたいと言っていました。ですから今日はまたこのテーマに戻って、前回お話したことをもう少し展開して行きたいと思えます。来週の私の誕生日直前にお届けするのが、この創立記念日のメッセージのパート2です。今日は私個人の証もいくつかお分かちします。

この標語の最初の部分はこれです「根本では一致を」。クリスチャンと名乗る人のうちでも一致するべき本質的教理があります：神がすべての造り主であり、三位一体の御父、御子、聖霊のうちに神が存在され、イエス・キリストは完全に神であると同時に完全に人であり、イエスは私達の罪の代価を払い、私達の創造主との関係を修復するために世に來られたということです。昨年10月は、これらの本質的教理を見事に述べている、古くからの2つの教会信条、使徒信条とニカイア信条の枠組みに沿って本質的教理を説明しました。OICは福音派の伝統を持つプロテスタント教会ですから、宗教改革の基本的教理にも少し触れました。そこにも本質的教理を理解する鍵があるからです。昨年の説教をお聞きになっていない方は、ウェブサイトから説教をダウンロードすることをお勧めします。

けれどもその時は他の要点について説明する時間がありませんでした。私が概説したのは、本質的教理、クリスチャン信仰の重要な教えですが、それも全体をお話したわけではありません。クリスチャンの本質的行動というものもあります。クリスチャンを名乗る人は、主イエス・キリストを映し出し、イエスを称える方法で生きるべきです。「クリスチャン」は「小さなキリスト」を意味し、生活の中でイエスの性質を反映すべきなのです。

コロサイ 1:10 「1:10 また、主にかなった歩みをして、あらゆる点で主に喜ばれ、あらゆる善行のうちに実を結び、神を知る知識を増し加えられますように。」

主にかなった歩みをしましょう。

主に喜ばれる人生を生きましょう。

神に仕えるうちに実を結びましょう。

神を知る知識を増し加えましょう。

エペソ 4:1 「4:1 さて、主の囚人である私はあなたがたに勧めます。召されたあなたがたは、その召しにふさわしく歩みなさい。」

繰り返します:クリスチャンとしてのその召しにふさわしく歩みなさい。

私達はキリストの弟子であると宣言するのですから、主の性質を反映しつつ、主にかなった歩みをしなければなりません。

では、福音の最も基本的メッセージとは何でしょうか？

イエスの道を備えた預言者、洗礼者ヨハネの言葉を見てみましょう。

マタイ 3:1-2 「3:1 そのころ、バプテスマのヨハネが現れ、ユダヤの荒野で教えを宣べて、言った。3:2 「悔い改めなさい。天の御国が近づいたから。」」

マルコ 1:4-5 「1:4 バプテスマのヨハネが荒野に現れて、罪の赦しのための悔い改めのバプテスマを宣べ伝えた。1:5 そこでユダヤ全国の人々とエルサレムの全住民が彼のところへ行き、自分の罪を告白して、ヨルダン川で彼からバプテスマを受けていた。」

ここに基本的なクリスチャンメッセージの要素があります。

悔い改めです。心を入れ変え、罪に背を向けることです。

罪を告白する。罪の赦しを受け取ります。

洗礼者ヨハネは、悔い改めについて説くことでイエス・キリストの道を備えました。それは「天の御国が近づいた」からだと言いました。天の御国が近づいた、そして私達が神の御国のために備える方法が罪を悔い改めることなのです。

そしてバプテスマ（洗礼）を受けること。これは、私達が古いのちを捨て、新しいのちを受け入れたことを象徴します。イエスが死からよみがえられた時、イエスはマタイ 28章とルカ 24章で弟子たちに教えを与えました。

ルカ 24:46-47 を見てみましょう。

「24:46 こう言われた。「次のように書いてあります。キリストは苦しみを受け、三日目に死人の中からよみがえり、24:47 その名によって、罪の赦しを得させる悔い改めが、エルサレムから始まってあらゆる国の人々に宣べ伝えられる。」

ここに福音の基本的なメッセージがあります。罪の赦しのための悔い改めです。私達は罪に背を向けなければなりません。ここで皆さんに注意したいことがあります。クリスチャン共同体の中にいる全員に、です:もしもまだ罪を捨てていなければ、クリスチャンの基準に従って生きているとは言えません。罪のない完全な人生を生きろと言うものではありません。それは不可能です。しかし、日々の生活で罪から離れようとし続けなければなりません。それがクリスチャン生活の重要部分です。

ヨハネ第一 1:8-9 「1:8 もし、罪はないと言うなら、私たちは自分を欺いており、真理は私たちのうちにありません。1:9 もし、私たちが自分の罪を言い表すなら、神は真実で正しい方ですから、その罪を赦し、すべての悪から私たちをきよめてくださいます。」

クリスチャンになってからも生活での罪はつきものです。しかし、もう罪が私達の人生に巣食うことをゆるしてはいけません。罪を告白しなければなりません。イエスは私達を赦し、きよめてくださる真実な方です。

ローマ 6:1-2 「6:1 それでは、どういうことになりますか。恵みが増し加わるために、私たちは罪の中にとどまるべきでしょうか。6:2 絶対にそんなことはありません。罪に対して死んだ私たちが、どうして、なおもその中に生きていられるでしょう。」

この聖句は私達が罪に対して死んだと言っています。罪に対して死ぬ。であれば、罪の中に生き続けることなどできるのでしょうか？目にするといつも驚いてしまうことが2つあります。一つは、クリスチャンを公言する人が罪に対して妥協し、罪深い慣習を続けているのを時々見ることです。もう一つは、このローマ6章のような箇所を新約聖書の使徒書簡で頻繁に目にするということです。使徒書簡には、この罪やあの罪を捨てなさいということがクリスチャンに対して多く書かれています。私達は、最初に悔い改めて、罪を捨ててクリスチャンになったのではないのでしょうか？そうです、ほとんどの人は。けれども、逆戻りするの簡単です。罪深い習慣は舞い戻りやすいのです。そして、新しくクリスチャンになった人に、罪と戦い続け、それを人生から追い出すことがなぜ必要で、どうしたらいいのかについて私達は十分に教えていないことも多いのです。

ローマ 6:12-13 「ですから、あなたがたの死ぬべきからだを罪の支配にゆだねて、その情欲に従ってはいけません。また、あなたがたの手足を不義の器として罪にささげてはいけません。むしろ、死者の中から生かされた者として、あなたがた自身とその手足を義の器として神にささげなさい。」

あなたがたのからだを罪の支配にゆだねてはいけません。罪やサタンではなくイエスがあなたの王です。あなたの「手足」を不義の器として罪深い習慣を続けてはいけません。あなたの手足を不義の器として罪にささげてはいけません。からだの手足-他にも、口、目、手、その他どの部分でもそうです。どれであっても、罪に捧げるべきではありません。このどれもが義の器として神にささげることができ、またそうすべきなのです。クリスチャンの本質的行動のこの項目については十分お話ししました:罪を捨てなければならぬ。クリスチャンの本質的行動の他の側面を見てみましょう。基本的な教会生活です。

ヘブル 10:24-25 「また、互いに勧め合って、愛と善行を促すように注意し合おうではありませんか。ある人々のように、いっしょに集まることをやめたりしないで、かえって励まし合い、かの日が近づいているのを見て、ますますそうしようではありませんか。」

互いに勧め合って、愛と善行を促すように。クリスチャンは他者を愛する者であるべきで、またそのような愛に満ちた人となれるように常に兄弟姉妹を励ますべきです。そして他者に対する善行に従事するのです。加えて、教会で集うことをやめてはいけません。共に集い励まし合うことは重要です。OICの教会規約の序文にはこうあります「大阪地区居

住の英語を話すプロテスタントのクリスチャングループが、イエス・キリストに従う者たちが、共に励まし合い、公に礼拝を持ち、積極的に奉仕するために一つとなり交わることが、神の御旨であると信じ、一致団結して、大阪インターナショナルチャーチを設立するに至り、1985年4月1日、第一回の公開礼拝が行われた。」—私達は、交わり、共に励まし合い、公の礼拝、積極的奉仕のために共に集うことが神の御心だと信じています。

使徒 2:42 「そして、彼らは使徒たちの教えを堅く守り、交わりをし、パンを裂き、祈りをしていた。」

私達はこのような新約聖書の使徒の教えを学び、献身的にそれに従うべく共に集うのです。また私達は交わりや、パンを裂くこと（食事を共にすること、聖餐式も暗示します）そして祈ることに専念すべきです。ここで少し、先週聞いたことを取り入れましょう。今日の説教を準備し始めてからアリスティア牧師の説教を聞き、その内容が私の説教の最初の部分のテーマに触れていると気づきました。特に、アリスティア牧師が与えられた OIC にとっての 2022 年の課題を今日ここで繰り返してみたいと思います。それは

「神の御言葉を知り、従うことを生活の中での最重要項目とすること」

神の御言葉を知り

神の御言葉に従う

神の御言葉である聖書を学ばなければなりません。

また聖書が言うことに従うべきです。今日、既にお話した基本から始めましょう：罪を捨て、神に喜ばれ、神を尊ぶ生活を送り、定期的に交わりや励まし、礼拝のために共に集い、他者を愛し、仕えることです。

ここまでお話したことはクリスチャンの本質的行動について言えることの一例です。また今後数ヶ月のうちにもう少し詳しく別の説教でみていきたいと思います。

今日の説教の後半に入っていきます。今日のお話の枠組みとなっている標語を思い出してください。—根本では一致を、それ以外には自由を

聖書を信じる誠実なクリスチャンの間でも、意見が分かれる教理や慣習があります。そのいくつかについて、10月の説教でお話しました。そして礼拝後に、クリスチャン兄弟たちと更にもう少し交わりの時間で個人的にお話をしました。彼らはもう少し、特に洗礼について聞きたいと言っていました。洗礼に関しては異なる教派で異なる慣習があります。なぜでしょうか？クリスチャンがどのように洗礼を受けるかについて、何が重要で、何が重要ではないのでしょうか？OICでは様々な背景を持った多様なクリスチャンがいます。実際、OIC設立当初はバプテスト派と長老派も参加していました。OICの牧師は今までバプテスト派がほとんどでしたが、教会規約は長老派によって作成されました。過去にはメソジスト派の牧師もいました。キリスト教の教派によって、洗礼は異なる方法で実践されています。中には幼児洗礼を実施する教派もあり、クリスチャンの両親を持つ幼児の洗礼を行うことは良しとされ、正式にクリスチャンの共同体の中に子どもがすぐに入ることができると信じます。他の教派では、そのように洗礼をすべきではないとされています。自分の意志でキリストに信仰を置く決心した人のみが洗礼を受けるべきだと言うのです。そこで洗礼のやり方についても疑問が生じます。水を振りかける、注ぎかける方法か、それとも全身を水の中に浸ける方法で行うべきなのでしょうか？教派によってこの問いへの答えも異なります。

OICでは、教会規約や信仰告白には見解が分かれる事柄について立場を表明していません。OICで洗礼を行うときは通常は浸礼ですが、メソジスト派の牧師が滴礼をしていたのを覚えていますが。OICの教会規約は教会員について「受洗し、この信仰宣言に同意するすべての信者にその資格を授ける」とあります。幼児洗礼を受けたクリスチャンも今まで教会員として受け入れられて来ましたが、私の知っている限りではOICで幼児洗礼を行ったことはありません。洗礼について聖書で見てみましょう。これは確実に鍵となる基督教の重要な部分です。イエスによって命じられ、洗礼者ヨハネ、イエス、使徒たちも実践しました。

マタイ 28:18-20 「イエスは近づいて来て、彼らにこう言われた。「わたしには天においても、地においても、いっさいの権威が与えられています。それゆえ、あなたがたは行って、あらゆる国の人々を弟子とせよ。そして、父、子、聖霊の御名によってバプテスマを授け、また、わたしがあなたがたに命じておいたすべてのことを守るように、彼らを教えなさい。見よ。わたしは、世の終わりまで、いつも、あなたがたとともにいます。」」

行って、あらゆる国の人々を弟子とせよ。

父、子、聖霊の御名によってバプテスマを授け

キリストがあなたがたに命じておいたすべてのことを守るように、彼らを教えなさい

使徒言行録 2 章のペンテコステの日、ペテロは最初の素晴らしい説教をし、そして最後に質問を受け、それに答えています。

使徒 2:37-38 「2:37 人々はこれを聞いて心を刺され、ペテロとほかの使徒たちに、「兄弟たち。私たちはどうしたらよいのでしょうか」と言った。2:38 そこでペテロは彼らに答えた。「悔い改めなさい。そして、それぞれ罪を赦していただくために、イエス・キリストの名によってバプテスマを受けなさい。そうすれば、賜物として聖霊を受けるでしょう。」

彼らに求められていたことは:

罪を悔改めなさい

イエス・キリストの名によってバプテスマを受けなさい

なぜバプテスマを受けるのでしょうか？それが何を意味するのでしょうか？それは救いの条件でしょうか？いいえ、救いに必要な条件ではありません。救いに唯一必要なのは、キリストにおける信仰です。しかしペテロのメッセージを信じて罪を示された人々はペテロに今何をすべきかと問いました。そして答えは「罪に背を向け、バプテスマを受ける」でした。洗礼はキリストにある新しいいのちの象徴です。信者は彼の死と復活にあってキリストと一体となりました。

ローマ 6:3-5 「それとも、あなたがたは知らないのですか。キリスト・イエスにつくバプテスマを受けた私たちはみな、その死にあずかるバプテスマを受けたではありませんか。私たちは、キリストの死にあずかるバプテスマによって、キリストとともに葬られたのです。それは、キリストが御父の栄光によって死者の中からよみがえられたように、私たちも、いのちにあつて新しい歩みをするためです。もし私たちが、キリストにつき合わされて、キリストの死と同じようになっているのなら、必ずキリストの復活とも同じようになるからです。」

コロサイ 2:12-13 「2:12 あなたがたは、バプテスマによってキリストとともに葬られ、また、キリストを死者の中からよみがえらせた神の力を信じる信仰によって、キリストとともによみがえらされたのです。2:13 あなたがたは罪によって、また肉の割礼がなくて死んだ者であったのに、神は、そのようなあなたがたを、キリストとともに生かしてくださいました。それは、私たちのすべての罪を赦し、」

キリストの死と復活において私達はキリストと一体となり、私達はキリストとともに生かされ、赦され、そしてこれはすべて神の力を信じる信仰によるのです。

これらのことについて私が熟考し見出したことを証として今からの数分間お話しします。私は若い頃、洗礼はキリストにある新しいのちの象徴であり、私たちが罪から離れ、キリストに信仰を置いたことの象徴であると教えられました。水に浸かって水から上がるという行為は、私たち自身の古いのちへの死と新しいのちへの復活を象徴しているのです。これはキリストに信仰を置くことを自分で意識的に決定した人のためのものです。

高校生の頃、友人の長老派教会にお邪魔したことがあります。その日曜日、教会では洗礼式が行われ、幼児に洗礼が授けられたのです。多くの教会で行われていることは知っていましたが、自分で見たのはその日が初めてでした。私は戸惑いと動揺を覚えました。立ち上がって「どうしてキリストへの信仰を表明していない人間に対して洗礼を授けるのですか」と叱りたい気分でした。しかしそのとき、当然彼らのこの慣習にも理由があることに気づいたのです。その理由が何であるかは分かりませんが、それが正当で聖書的なものであると信じる理由があることは確かです。

それから数年後、私はロサンゼルス大学の在籍し、ジョン・マッカーサーの教会に通っていました。その教会では、キリストを信じることを自ら宣言した人だけが洗礼を受けられるという「信者限定洗礼」を厳格に守っていました。大学卒業後、私はその教会の夜間クラスで神学的な講義をいくつか受けました。その授業の中で、洗礼について取り上げられることがありました。幼児洗礼を実施している教会では、洗礼を弟子の証ととらえ、親がその子をキリスト教信仰によって育てると誓約していることを知りました。子どもたちは小さな弟子なのですから、なぜバプテスマを受けさせてはいけないのでしょうか？

そして、旧約聖書で割礼がイスラエルの民に対する神の契約の約束のしるしであったのと同じように、このような教会では、洗礼は神の民であるキリスト教会に対する神の契約の約束のしるしとみなされていることを知りました。もしこれが本当なら、教会員の幼児にバプテスマを施すのは正しいことです。それは、自分の子どもをクリスチャンの共同体に入れ、神との契約の関係の恩恵を受けさせたいと思うからです。このような洗礼は救いを与えるものでも、子どもがクリスチャンになることを保証するものでもありませんが、形成期の子どもたちはクリスチャン共同体の中にいることの恩恵を受け、教えを受けているのです。彼らは小さな弟子なのです。幼児洗礼を擁護する人たちは、そのような信念を持っているのです。

大学時代、私はかなり理想主義的で、ジョン・マッカーサーの優れた聖書教育に畏敬の念を抱いていました。彼はどの聖句も本当に深く掘り下げて、歴史的背景や聖句にあるギリシャ語の単語の詳細を教えてくださいました。彼は神の御言葉をととてもよく、そして徹底的に照らし出していました。また自分が探求する聖句の意味について、的確な結論を導き出しました。そして私は、もし皆がギリシャ語やヘブライ語の原文に戻り、歴史的背景を

理解することができれば、神学的・教派的違いをなくすことができるのではないかと思うようになったのです。私は本当に理想主義者でした。でも、そんなことはありません。実際、私はあることに気づき始めたのです。ギリシャ語の聖書を知っている他の素晴らしい聖書学者たちが、洗礼を含むさまざまな神学的問題について異なる結論に達していることに気づいたのです。そして、驚いたことに、ある教義や慣習についてしばしば互いに意見を異にするこれらの優れたクリスチャン教師たちの働きを、神が用い、祝福しておられるのを見たのです。長老派、バプテスト派、カリスマ派、メソジスト派、ペンテコステ派、カルヴァン派、反カルヴァン派、これらすべてのグループのクリスチャンを神様が用い、祝福しておられたのです。もちろん、どのグループも完璧ではなく、それぞれに強みと弱みがあります。しかし、私が教えられてきた神学とは異なる神学を持つクリスチャンを神様が用いられることに、私は素直に驚きを覚えました。神は慈悲深い方であり、完璧を求めるのではなく忠実であることを祝福してくださいます。

キリストは私たちに「すべての国の人々を弟子にきなさい」という大宣教命令を与えましたが、この任務を遂行する人間の器が必ずしもすべてを正しく行うとは限らないと、キリストは十分承知しておられました。しかし、キリストは私たちに聖霊を与えて、私たちを宣教のために力づけ、賜物を与え、私たち一人一人がキリストのからだの中で自分の役割を果たすことを望んでおられるのです。私たちが神と神の御霊に近づき、神の御言葉に従う限り、私たちの不完全さやお互いの意見の相違にもかかわらず、神は私たちを通して働いてくださるのです。

私が1986年秋と1991年秋の2回留学したイギリスのクリスチャン学習センターのことは、以前にもお話ししました。私はこの場所が大好きです。彼らは、聖書が人生のあらゆる分野に語りかけると信じているので、そこに行けば、どんなことでも聖書の観点から勉強することができますし、勉強するための資料もたくさんあります。私は色々勉強したいテーマがあったのですが、そのうちの二つについてお話しします。一つはカルヴァン主義で、もう一つは幼児洗礼です。結局私はどちらも受け入れられませんでした。多くのことを学びましたし、そこで過ごした時間に感謝しています。

そこで勉強しているときに、こんな魅力的な本を紹介されました。タイトルは、"The Water that Divides - the Baptism Debate (仮題:「分かつ水-洗礼を議論する」)"です。幼児洗礼を実践する牧師と信者だけの洗礼を実践する牧師の二人によって書かれた本です。この本は非常にバランスが取れていて、とても参考になります。特に歴史的な慣習についてはそうです。私が学んだ最も興味深いことの一つは、教会の歴史の中で、クリスチャンの親は幼児に洗礼を授けることを望んできたということです。この慣習に反対する人もいるかもしれませんが、これは教会の歴史でほぼ常にとってもいいほどクリスチャンの願いでした。聖書の教えを重視するプロテスタントの宗教改革が始まったときも、ルター派やカルヴァン派などのプロテスタントの主要なグループは、幼児洗礼の慣習を維持し、擁護していました。私はバプテスト派にとどまりましたが、幼児洗礼については2つのことを認めています。一つ目は、教会の歴史上、クリスチャンは幼児に洗礼を授けて、教会の生活に完全に参加させたいと考えてきたことです。これは200年頃まで行われていて、今日も続いています。もう一つは、この立場を支持する人たちは、聖書的に首尾一貫した主張を持っているということです。私は彼らの主張のすべての要素に同意しないかもしれませんが、彼らの目には自分たちが正しいと映っているのです。

このように考えつつ聖書を調べてみると、使徒書簡には、洗礼を受けてもよい人・いけない人について特に指示はしていないことがわかりました。福音書と使徒言行録に話があるのみです。ここでは、悔い改めて洗礼を受けるようにと命じられています。ですからその呼びかけを理解し、応じることができる人のためのものだと考えられます。そのために多くのクリスチャンが、洗礼を受けるのは自分から信仰を表明した人だけと考えるのです。けれども、使徒 2:38-39 を見てください。

「そこでペテロは彼らに答えた。「悔い改めなさい。そして、それぞれ罪を赦していただくために、イエス・キリストの名によってバプテスマを受けなさい。そうすれば、賜物として聖霊を受けるでしょう。なぜなら、この約束は、あなたがたと、その子どもたち、ならびにすべての遠くにいる人々、すなわち、私たちの神である主がお召しになる人々に与えられているからです。」

興味深いのは、この約束にあずかれるのが子どもであると明記されていることです。多くのクリスチャンにとって、このことがクリスチャンの親が幼児をクリスチャンの共同体に入れて、その約束を享受するために洗礼を受けさせる可能性に道を開いているのです。もう一度、大宣教命令について見てみましょう。

マタイ 28:18-20 「イエスは近づいて来て、彼らにこう言われた。「わたしには天においても、地においても、いっさいの権威が与えられています。それゆえ、あなたがたは行って、あらゆる国の人々を弟子としなさい。そして、父、子、聖霊の御名によってバプテスマを授け、また、わたしがあなたがたに命じておいたすべてのことを守るように、彼らを教えなさい。見よ。わたしは、世の終わりまで、いつも、あなたがたとともにいます。」

キリスト教会の様々な支部は、弟子を作り、洗礼をさづけ、指導することを優先してきました。その方法は様々であり、私たちの間にも大きな違いがあります。しかし、私はキリスト教の教義と慣習の本質的な点を守る限り、教派を超えた兄弟姉妹を受け入れたいと願っています。

前回のメッセージで概要を説明した、重要な教義。

今日のメッセージの前半で説明した、クリスチャンの本質的行動。

その他にも、大切ではあっても重要素とは言えないものがあります。そのようなことで兄弟姉妹と同意できない時は、ある程度の自由を与えましょう。

そして、常に愛の法則に導かれるようにしましょう。

「根本では一致を、それ以外には自由を、すべてにおいて慈愛を」

ローマ 13:8 「13:8 だれに対しても、何の借りもあってはいけません。ただし、互いに愛し合うことについては別です。他の人を愛する者は、律法を完全に守っているのです。」

最後に、使徒パウロがエペソ 4:1-3 で述べた言葉で終わしましょう。

「4:1 さて、主の囚人である私はあなたがたに勧めます。召されたあなたがたは、その召しにふさわしく歩みなさい。4:2 謙遜と柔和の限りを尽くし、寛容を示し、愛をもって互いに忍び合い、4:3 平和のきずなで結ばれて御霊の一致を熱心に保ちなさい。」